

サギソウが見頃です せら夢公園自然観察園



標準和名：サギソウ 分類：ラン科 サギソウ属 花期：7月下旬～8月 場所：貧栄養湿地

シラサギ（白鷺）が翼を広げたような花を咲かせることが名の由来です。

サギソウは世羅台地の自然の特徴の一つである“貧栄養湿地”（栄養分の少ない湧水が流れこむ湿原）に自生しています。貧栄養湿地では樹木などの大型の植物は生育せず、モウセンゴケ（毛氈苔）などの食虫植物や、共生菌から栄養分をもらう水生のラン科の植物などが自生しています。

自然観察園の湿地では、6月に開花時期を迎えるトキソウ（朱鷺草）、7月上旬から中旬にかけて開花するコバノトンボソウ（小葉蜻蛉草）などのラン科の植物を観察することができます。

しかし、湿地の荒廃・開発などによる生息地のそう失や、栽培目的の乱獲によって、サギソウは環境省のレッドデータブックで準絶滅危惧種、広島県では絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。

花の形と受粉

サギソウの花は、白鷺に似ているだけでなく、他の蘭と同様に面白い形をしています。

そのひとつが蕊柱（ずいちゅう）と呼ばれるおしべ（雄蕊）とめしべ（雌蕊）が一体化している部分です。花粉が入っている場所は葯室（やくしつ）とよばれ、葯室の中に花粉の塊があります。花粉の塊の先には粘着体（写真で白い点に見える部分）とよばれるものがあって、これは葯室の外に飛び出しています。

サギソウは、この粘着体によって距（きょ）の中にある蜜を目当てにやってくるスズメガの仲間の頭にくっつき、花粉を他の花に運んでもらおうという魂胆（？）なのです。スズメガについた花粉は、別のサギソウの柱頭（ちゅうとう）で受粉することになります。

写真にもあるように、サギソウの蜜のある場所は距とよばれる細長い袋状になっています。サギソウが花粉を運んでもらうためには、サギソウの長い距に匹敵する長い口、口吻（こうふん）を持った生き物でなければなりません。それがホシホウジャク（写真）などのスズメガの仲間です。スズメガの仲間はサギソウの進化に合わせて長い口吻をもつようになったと考えられています。こうした、異なる生き物が互いに依存して進化することを共進化と呼ぶそうです。



↑サギソウの蜜を吸うホシホウジャク